



札幌帝國大學

八田三郎様

侍史



東京 記法 行
加島 録 行

勝 牛 行

札幌

八田様

仰世右

三月九日

再にお便り賜はり有り難ういへども火の
 咄味を以て揮流致す此北海道の家を以て
 揮えり子につけお流し承るにつけ念し
 おつかしくお早し廣く在る大自然に接し
 暢々の事んことを承しお待ち在り
 昨白知健忘の事傍を物も中々時式
 に帰るおに流し申し
 明々々向心八日る毎々三田の山一告別、群
 を認めに直さる申し

先回おまで 候は候
 折角の自愛祈上

新島



二件

ミス、キヤリヤに仰書り送り
 念由便宜少からず難有存中い
 ありも不日一書お是可化在候し